

## 尹 相軫 (ユン サンジン)

韓国出身

日本体育大学 体育科学研究科コーチング学専攻 博士課程

### 日本で出会った青い目の親友

その縁の始まりは2012年の夏、日本体育大学の深沢キャンパスの一階のエレベーターの前だった。昼ご飯を学食ですませた私はちょうど地下2階の自分の研究自習室に戻るつもりで足を運んでいた。普段ならそのまま何も考えずに階段を利用し、下へ行ったはずだが、なぜか自分が立っている建物の一階、一番端っこから向こうの端っこへ偶然目をやった。遠くからの影でも外国人だと分かるほどのある人がエレベーターの前に立っている姿を見た瞬間、自分も知らずに走り始めた。

“この学校に東洋人以外の外国人もいるんだ”と思いつつ、そのまままっすぐあの人に走っていった。“きっと私の目的地が自分だとは思わないはずだな”と思ったが、日本語がうまくできない外国人だからこそ分かりあえる友が必要だった私で、凄く嬉しく走ったと思う。向こうから見た時は知らなかったが、男性で私とほぼ同じ背の高さの人が立っていた。“Im nittaidai student, and korean. Are you nittaidai student, too?”そう聞いて、向こうからは質問の答えではなく、“Can you speak English?”という質問が飛んできた。“yeah, maybe we can talk in English”と答え、時間があるなら向こうのカフェテリアで話そうと誘った。それが日体大短期留学生クリスとの出会いだった。カフェテリアでの彼はこの瞬間を待っていたように語り出した。自分も日本に来て1か月经ったが、まだ日本で友達がいなかったことからの日本のライブ、来日の目的など、ほぼ2時間半話しあった。そしてお互いの電話番号を交換し、また学校に来たらご飯でも食べようと約束し、



別れの挨拶をした。それから、彼が居た約5か月間の週末は色々な国の人々と出会い、話し、楽しい日々となった。彼の家は外国人が何人か住んでいるところで、大きいリビングがあり、時間がある時行くと、世界国々の料理を味わえた。特に、ラーメンが大好きだった彼は外食をすると必ずラーメン屋さんへ行き、毎日ラーメンを食べ、彼の母国ドイツへ帰る時、10キロも肉が付いたが、ラーメン屋巡りは続いた。凄く誠実だった彼は私が困った時、いつでも時間を作り、手伝いに来てくれた。特に私が引っ越しをする時、朝は早く来て、荷物の運びから、私が部屋の契約をする間、寒い冬の中で2時間も外で自分の荷物を守っていて、風邪をひいても文句もせず、“ラーメン一杯で良いよ”と冗談をする彼の存在は未だに私の頭の中で、強く残っている。彼がドイツに帰ってからも、その縁は続いた。Facebookで連絡を交わしながら、就職の話、恋愛、家族などのエピソードを共有した。私が修士課程を修得した時、自分が修得したように喜んでくれた彼との再会は、自分が海軍士官学校で軍隊の義務を果たすため、軍隊に入る前の1か月間、ヨーロッパ行きの飛行機に乗った時だった。その時も凄く楽しく一緒に

旅行をし、彼がそれほど話していた彼の家族と初めて出会い、色々な大切な思い出を作った。しかしながら、彼は私が彼に感謝している以上に、私に感謝していると思う。なぜなら私がヨーロッパ旅行の時、ある居酒屋で今の彼の彼女に話をかけ、彼に紹介したからだ。その縁は今まで続いている。

